
真剣でこの世界にやってきた

オナニー仙人@TDN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真剣でこの世界にやってきた

【Nコード】

N6474Z

【作者名】

オナニー仙人@TDN

【あらすじ】

主人公【明】はいじめを受けて中学2年から3年のクリスマスまでひきこもっていたが、とうとう明は親にも追い出され自分の行き場を失う・・・そして明はとうとう飛び降り自殺をした・・・がなぜか自分が目を覚めたときには真剣で私に恋しなさいとまったくおなじ世界にきていた・・・そこで彼は一人の男性にあった・・・その名は雅、そして雅をこういう「今日からお前は俺のお父さんだ、よろしくな」

そう・・・すべてはここからだった

初めて投稿するんでよくわからないところかもありますが
オナシヤス!!

真剣で考えなさい！！

自分は初めて小説投稿しますのでこれからオナシャス……

真剣で私に恋しなさい！！の派生小説です。

一応更新は富樫レベルと認めていただきたいと思います。

それではよろしくお願いします！！

僕の名前は「後藤 明」

僕【真剣で私に恋しなさい】というアニメを見ながら部屋の中1人こもっていた

「はあ・・・俺もこの世界にいきたくないなあ・・・2次元いいなあ・・・」
僕はそう思いながら日々のひきこもりになっていった原因はいじめ・

僕はデブで女子からも男子からも嫌われているそのおかげで中2から中3の今までひきこもっているのだ。

そして僕のこの現実逃避生活にも終止符が打たれるときがやってくる
その日はクリスマスだった、僕はいつものようにPCをつけゲーム
したり掲示板あたりしていた

誰かが俺の部屋の近くまでやってきた俺はどうせトイレだろうと思
ってP.C.をしていたら親父が入って来た

「おい、お前は今日でさよならだ、今日の6時に施設にいれるからな」

そう……とうとうこの日がやってきたのだ……

僕はもうこれでこの世からはおしまいなんだと思った……

僕は気が付いたら家から出て走っていた親父の声がだんだん遠くな
って行く・・・

僕はなぜか学校にきていた、そう僕はここで人生を終わらせようとおもった

ああ・・・もし死んだら「真剣で私に恋しなさいの世界にいきたくないああ・・・」

僕はそう思いながら飛び降りた・・・顔にはいろんなものがでいて、涙、鼻水、よだれ

今の僕は最高に汚かった・・・さよなら・・・家族・・・

ドン

僕は目が覚めていた・・・ここは天国なのか・・・にしてもどこかで見たような風景だなー・・・あん？そういえばここ・・・いや、ここは違う、天国だ・・・

俺はどうやら河原で寝ていたらしい

???「よお、やつと気が付いたかももうあんなことはするんじゃないぞ」

俺「おい！！誰だよここはどこだ！！」

???「お前が望んだ場所だ」

俺「は・・・？と、いうことは・・・」

???「そう、お前は明日から川神学園ですごすことになる。いいか？そして俺がお前の親ともなる雅だ、よろしくな」

そういつて雅は・・・じゃなくて雅さんは俺に握手を求めてきた

雅さんは髪が長くスラっとしていた絶対こいつ持てるだろ・・・リア

ア充が・・・

そんなことは置いといて僕はまだ今の現状がわかっていなかった・・・

あ・・・そういえば死ぬ前に叫んでいたな・・・俺は思っていたことを叫んで飛び降りたのか・・・

と、いうことはあああああああああああああああああああああやったああああああああああああああああああああああああああああああ！！

僕のテンションは爆発しそうなくらいだった

そのテンションに雅はフツツと笑ってこういった

雅「そのお前のテンションはどこまで続くかな・・・」

俺「どういう事ですか？」

雅「お前の今の精神力と力のなさど体系と顔をよく見てみる」

俺「ぐっ・・・（絶望）」

俺は・・・2次元でもひきこもりになるのかな・・・いや、ならない！！絶対だ！！

これは神が与えたチャンスだ！！絶対ものにしてやる！！絶対にな！！

俺「僕は負けませんよ、神が与えた最高のチャンスもたらすわけにはいかないでしょう」

雅「そうか、まあ困ったときは俺になんでも相談しろ一応俺は明の父親だからな」

俺「雅さんあなたはなにものなんですか・・・！？」

雅「その説明はあとだ・・・そうだ！！お前は川神院にするか？それとも島津寮どっちがいい？」

俺「うーむ・・・川神院はいろいろと死にそうだから俺は島津寮でいいや」

雅「まったくお前は・・・ハーレムなんて期待しても無駄だぞ？」

俺「俺はあんな武道だらけの生活は嫌だ！！しかもあそこ温泉あるだろ」

雅「まあ、いいだろう」

俺「雅さんはどうするんだい？」

雅「俺も少しはそこにいてやれるが俺は四天王だ、いろいろと忙しいから毎日はお前の面倒みてやれんと思う、それでもいいな？」

俺「ああ、もちろんだ・・・って四天王？なにそれ？」

雅「だああああああああああああああ！！今のは聞かないことにしてくれ」

俺「あ・・・ああ・・・わかった」

こうして俺の新しい生活が始まるのだった

真剣で課題をクリアしなさい（前書き）

雅がくりだした課題とは・・・

真剣で課題をクリアしなさい

雅「ほら、ここが島津寮だ、まあ連絡はいれておいてやったから後はお前に頼んだぞ」

俺「ちよつとまって雅さんまだ聞きたいことはやまほどあるのにイイ！！」

雅「俺は9時には戻るからそれまでゆつくりしといてくれや」

俺「わ、わかった・・・」

いや、いくら二次元とはいえども・・・やっぱ1年半ひきこもってたせいかとても人と会話するのは怖い・・・

おばちゃん「あんが、明君ね今日は寒いから早くいらっしやい!!」
あ、あれは麗子さんか・・・やっぱアニメで見たのとそっくりだなあ・・・

俺「あ、はい（挙動不審）」

麗子「さ、あんたは1回の一番奥の部屋だから」

俺「わかりました」

麗子「それと1階は男子の部屋2階は女子の部屋と分けられているからそこも気おつけてねもし、男子が2階にあげれば・・・その時は・・・まあ、お風呂は1階にあるから」

俺「わかりました、今後ともよろしくお願いします」

そういつて俺は頭を下げた

麗子「うん、偉い子だね今日はサービスに夜ご飯は卵焼き付けとくわ」

俺「ありがとうございます」

麗子「それじゃあ私は晩御飯の支度でもいつてくるね、なにかまたわからないことがあれば行ってちょーだい」

俺「はい、そのときはお世話になります」

なんとか麗子さんとの挨拶も終えて自分の部屋に戻って行ったところだったにしても島津寮ってこんなに騒がしかったんだな

俺「さーつてと、ここが新しい部屋かー ん？なんだこれ」

そこに【明へのプレゼントだ 雅】

と書かれた封筒とともにでかい箱があった封筒の中には手紙がはいっていたよんでみると

メリークリスマスー！！

君にはとっておきのクリスマスプレゼントを用意したよ
といっても私生活類だけどね

携帯と洋服と生活用品を置いたよ

まあ、今日はゆっくり休んでくれたまへ

雅より

そう手紙には書いてあったのだ

俺「携帯だー！！」

どんだけ優しいんだ雅さんはー！！

俺「スマホか？アイホンか？ジョ○スカ？uuか？KJJJIか？」

中身を見ると I p o n だった

俺「ジョ○スキたー！！！！！！機種はなんだ？」

KJJJI

俺「KJJJIきたー！！！！！！uuキタ ！！」

俺のテンションはまたしても爆発してしまった

麗子「みんなーごはんだよー」

そついつて俺はアイポンを後にご飯にした

俺が食卓についたら

源さんと京と大和とキャップがいた、うむやっぱアニメと一緒にだな
麗子「今日からこの寮に住む明君、皆仲良くしなさいよ」

俺「皆よろしく!!」

そういつて俺は元気よく挨拶した

キャップ「おう、俺は風間翔一、キャップと呼んでくれよろしくな
！」

大和「俺は直江大和だよろしく」

源さん「俺は源 忠勝だよろしく」

京「・・・」

大和「こいつは京、ちょっと根暗だが根はいいやつなんだ」

うむ・・・やっぱアニメと同じだな俺はそう思いながら飯にした
キャップ「明はどこからきたんだ？」

この時なんていえばいいんだろうか・・・異次元転送とかいったら
完璧変人扱いされるし・・・

そうだ地元をいおう！

俺「俺は福岡からきたよ、ちょっと親の都合でこっちにくるはめに
なったんだがな」

キャップ「その親は？」

俺「ん？知らね」

俺は適当に嘘をつきながらいろんなことを皆と話していた
よかった・・・なんとか俺は会話くらいはできるみたいだ

しかしこの体系どうにかしないとなあ・・・太りすぎて1カ月もた
たないうちに女子から嫌われてしまう・・・そういえば雅さんは四
天王とかいていたな、しかもあの人なんか強そうだし、今日頼ん
でみるか

俺は風呂からあがったときには雅さんがいた

雅「よお、仲良くやってるじゃねーか」

俺「はい、おかげさまで 所で話があるんですが、いいですか？」

雅「ん？なんだ？」

俺「俺は明日から何年何組になるんですか？」

雅「お前は1-F組だ、学力は心配するなお前よりも頭の悪いやつはいるから」

俺「ええええ！！いきなり高校生ですか！！」

雅「そうだよ、どうせあと少しで卒業だからよかっただろ」

俺「わかりました、それじゃ最後に一ついいですか？」

そして俺は雅さんの前で土下座した

俺「雅さん！！俺を強くしてください！あなたは四天王なんでしょ？聞き逃せといっても俺は絶対にそれだけは聞き逃せません」

雅さんは困ったような顔をしたがこう言った

雅「じゃあお前が川神百代に勝ったら俺の弟子にしてやろう」

俺「わかりました！！　　は？」

・　　そうそして俺はいきなりクライマックスな展開へ進んでいった・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6474z/>

真剣でこの世界にやってきた

2011年12月21日21時48分発行